

更新伝道

No.133

発行：更新伝道会

発行者	会長 佐野英二
編集	編集委員会
委員長	岩本聖史
通信先	〒一六五〇〇三五 中野区白鷺二四七七一〇
TEL	03-6333-1118 七九七三

【更新伝道会全体委員会】 開会礼拝説教

「メソジストの遺産と継承」

テモテへの手紙二 一章三〜七節

甲府教会牧師 松木田 博

更新伝道会は、日本基督教団においてメソジスト教会の遺産を継承するために、相互の交わりと研鑽の時をもっています。

ところで、メソジスト教会の遺産とは一体何でしょうか。いろいろなことが考えられます。しかし、どのような遺産を語るにせよ、主なる神の御前における敬虔なる信仰ということを外しては、メソジストの遺産を信じる信仰に生きている母エウニケでしょうか。

テモテの母エウニケは、ユダヤの女性でしたが、使徒言行録十六、一

によりますと、ギリシヤ人と結婚しリストの弟子、また伝道者としての

働きに召され、献身する事となります。その信仰の基本は、言葉で伝えられたのではない、キリストを信じる信仰に生きる、母と祖母の姿であった事と思われま。

パウロは、「先祖に倣い清い良心をもって仕えている神に、感謝しています。」と言っています。ここでパウロが言っている先祖とは、顔も

分らない会ったこともない遠い先祖のことを言っているではありません。たとえば、両親や祖父母と言ったような、直接会ったことのある、ごく身近な人々のことです。その人

たちから、信仰上大きな影響を受けた、ということです。パウロが受けた教育は、キリスト教のそれではなくユダヤ教ではあるのですが、しかし

教理的なこととはともかく、そういった身近な人々がもっていた信仰を、受け継いだのです。信仰は直接、その人の生活、生き方を通して伝えられるものであることを、意識しているのです。

このように、信仰は先に信じた人の生を通して、伝わってゆくのです。テモテにも、正統信仰がそのように

伝わっていると、パウロは疑いなく確信しているのです。

メソジストの遺産もまた、理屈や言葉で伝わるものではない、と思えます。もちろん、神学的に整えられたものを継承してゆくことも、非常に大切なことは、言うまでもないことです。けれども、メソジストの生きた信仰は、私たちメソジストのクリスチャンの生活を通して、次の人へと伝えられてゆくのではないのでしょうか。

更新伝道会に招かれている私たちに、主が与えてくださった使命は、何か。それは、メソジストの敬虔な信仰を、言葉や理屈だけでなく、信仰を生きることで次の世代に伝えることではないでしょうか。

ウエスレーは、その生涯において、福音信仰の実践に生きました。実際の活動の中で、メソジストの敬虔な信仰を、多くの人々と分かち合い、さらに次の世代へと継承されていったのです。

私たちもまた、この信仰を生きることを通して、メソジストの信仰を継承してゆくものでありたいと願っています。

【更新伝道会全体委員会】

主 題 講 演

「平和を証しする共同体―希望の生を生きる」 ～ウエスレーの信仰に学ぶ～

青山学院大学宗教主任 東方 敬 信
更新伝道会 委員

序、宣教最前線の神学

「宣教最前線の神学」は、机の上で考える神学でなく、生きて証しする神学である。ちょうどウエスレーが回心の時に「新鮮な実在」に触れたように自らもその実在に生きる。新鮮に恵みに触れた「ガッツの神学」から考えるなら、ウエスレーの回心の言葉「心（ガッツ）が不思議に燃える」は、いま私たちの経験に燃えなければならない。今回は、三・一一以降の状況で「ソーシャル・キャピタル」といわれる共同体論を検討する。これは最近の用語で「絆」についての社会科学の考察をさすが、私たちはそこにある「暗黙知」にまで議論を深める必要がある。つまり、表面的な絆ではなく「新しく新鮮な実在」に触れて生まれる信頼や連帯という絆を提案しなければなら

ない。
一、アリストテレスの友情

W・スポンソンの『聖書とキリスト教倫理』には、「アテネの哲学者とイスラエルの預言者とが異なるのは、知性の高低ではなく、想像力やヴィジョンの違いに基づいている。」とある。そこで、アテネの哲学者の「絆と聖書の絆を比較したい。まずアリストテレスは、『ニコマコス倫理学』で三種類の友情を描いている。第一の「有用性の友情」は、「自己にとつての或る善が相手かたから与えられるかぎりにおいて相手かたを愛している。」という。第二に、「快楽の友情」は、「快楽のゆえに愛するひととびともまた、これと同様である。たとえば機知のなひとびとを愛しているのは、彼らが何らかくか多くの人物であるということのゆえではなくして、自分にとって彼らが快はななくて、自分にとって彼らが快適だからにすぎない」。機知にとんだ人物が好ましく思われるが、おうおうにしてそういう人は、深い人間関係に進んでいかない。第三の美德が現われ、そのひとは、助けを叫び求めるのではなく、高貴にも黙って消えていかなければならない。

二、神学的視点における友情
「聖書の友情の理解」は正反對である。旧約聖書の民とイエスの出来事において私たちに近づかれた神は、痛みと苦悩に参加し、それを癒す愛を持つ方である。十字架の苦しみと死を担ったキリストの友となるなら、私たちは、友人の痛みや不幸を排除したり、苦しみや不幸の共有を遠ざけたりする友情を受け入れるわけにはいかない。もし、キリスト者が完全な友情について叙述する仕方を見つければ、「わたしがあなただけを愛したように、互いに愛し合いたがために自分の命を捨てること、友のために大きな愛はない。」（ヨハネ一五・七―一七）と主イエスが教えたところとなる。さらに、私たちは、キリストの体という「新しい共同体」に到達する。この共同体における友情は、特別な恵みである。なぜなら、その友情は、神が私たちを愛した友情に重なり規定されるからである。新約聖書は、私たちが神の愛を学ぶとき、はじめて互いに愛することができると言う。キリス

ト者は、友人を賜物と見るだけではない、ポリュメストルが財産に目が眩(strahlen)に心を向ける。第二に、描きつつそれを克服するキリストの、友情をも賜物として見る。彼らみ、たった一人のヘクバの子を殺害キリスト教信仰の中心にあるイエスは、自分たちではなくまさに神が作り、海に捨ててしまった事実であつた。そこで、怒りに狂ったヘカベが人間の脆さと悲劇性に参加し、ポリュメストルの子供たちを殺して、それを克服した出来事である。それがイスカリオテのユダに裏切られて十字架につけられ、しかも復活の町は、食生活も周辺の町と変わらないう。この大変陰惨な悲劇は、ポルメストルの貪欲の愚かさへとヘクバの激しい悲しみと憎悪が見事に描かれて、現れたことは、神が人間の脆さと参加することに他ならない。

三、友情の脆さと十字架の愛

現代の女性哲学者ナスバウムは、古代ギリシャの非劇作家ユーリピデスの『ヘクバ』の内的悲劇性について記した。ナスバウムの指摘する「脆さ」は、愛が転じて嫉妬になるような「危険な落とし穴」である。『ヘクバ』は、トロイアの年老いた王妃が主人公であるが、ギリシャ軍によって娘を殺されてしまう。その戦争とてなく、愛し信じてと同時に憎み復讐しようとする人間の魂の深みから、新しい人間の創造したという主張は、新たな悲劇が待っていた。彼女はアテネとの戦争のとき、隣国トラキアの王ポリュメストルにたった一人の子を預けた。彼女は、一人息子を戦争の難から逃れさせるために、外国に預け、養育のために財産もつけて頼んでいた。ところが、敗戦と同時にヘクバのところに届いた情報

四、脆さの克服とキリスト教共同体
キリスト教的友情には二つ特徴がある。第一に、そのキリスト教の友情の特徴は、見知らぬ者(α)の物語は、十二分に人間の攻撃性を帯世代と「新村社会」という本に

は、「村八分にならないためのルール」という章が設けられている。「愛想笑いを絶やしてはいけない」「弱っている村人を励まさないといけない」「一体感を演出しなくてはいけない」「話を途切らせてはいけない」「共通話題をつくりださないといけない」「正しいこと」より「空気に従わなくてはならない」「コンプレックスを隠さなくてはならない」「だよね会話」をしなくてはいけない」など、新村社会の掟が列挙されている。これに外れると村八分にされる。ネット上で晒し者にされると、スケールが違う。このような表面的な「新村社会」にはどつしりした信頼関係は生まれるはずがない。



このような危うい部分をもつソーシャル・キャピタルに対して、「新しく新鮮な実在」との出会いを共有する証しの教会は、まさに二一世紀の福音、「ソーシャル・ゴスペル」を宣べ伝えていく。ジョン・ウエスレーの回心の前後に賛美の経験があったことを見逃してはならない。アルダスゲイトの回心の直前に彼は、セント・ポール寺院の午後の祈りに参加し、「われ深き淵より、汝をよびまつれり。」という頌栄をジャーナルに記録している。さらに、回心の翌朝「眼を覚ました瞬間、「イエスよ、主よ」との言葉が、私の心にも口にも満ちあふれて、自分の全力が、眼でイエスを見つめ、魂では絶えずイエスに事えるというところに集中している事を発見した」という。そして午後セント・ポール寺院において素晴らしい頌栄に記された素晴らしい言葉を味わった。「わが歌は、主の素晴らしきいつくしみを常にほめたえん」。このような信仰と賛美の生活から、あのキングスウッドの村全体の回心が生まれるのである。



全体委員会（於 ニューウェルシティ湯河原）

【更新伝道会全体委員会】 閉会礼拝説教

「全地よ、主の御前に沈黙せよ」

詩編九三編三〜四節

関西学院教会牧師 森里信生

更新伝道会全体委員会を終えて 言葉として選ばれたマルコ福音書の私たちは、それぞれの場所へと帰る。言葉もまた主の御声によつて風は止ていく。その時、私たちは御言葉に、波は鎮まったという記事である。聞いて、ここから遣わされて行きたし、しかし、ことはそれほど単純ではない。与えられた御言葉はローズンゲイ。ンに示された言葉である。

教会で今、マルコによる福音書を「主こそ王」と歌い始められる詩編九三編は「神の力強さ」を歌い上娘の出来事にさしかかった。娘が死んでいる。力強い神は「威厳」を、に直面しているとヤイロは主に助けを求め、主と共に行くうちに、一二また「力」を衣として身に帯びておを求め、主と共に行くうちに、一二られる。それだけでは不足である。年の間病に悩む女性が絡んでくる。神の統治される世界は、「堅く据えそこにヤイロの家から使いの人がられ」「揺らぐことがない」。このよやつて来て「娘の死」を告げた。そのうな力強い神の御支配は永遠より永の言葉を主イエスが「そばで聞いて」遠に及ぶ。「いにしえより」とか「と下さったという。これを口語訳聖書にしえの昔から」と語つて、私たちは「聞き流す」と訳していた。このの歴史もまた神の御支配の元になる言葉には、「漏れ聞く」とか「耳に留める」という意味と共に「聞き流す」という意味がある。両者を同時に言い表す日本語を私は見つけることができなかったが、マルコがこの

ここでは、自然現象が語られているように見える。この言葉を教える

ような言葉を、ここで用いていると意義深く思った。ヤイロにとつて娘の死は何物にも代えがたい、痛恨の出来事であつたに違いない。替わることができたら、自分が替わつてもいいとさえ考えたに違いない。ヤイロに襲いかかり、彼を動転させ、うろたえさせた言葉を主イエスが聴いて下さつて「恐れることはない、ただ信じなさい」と語つて下さつた。くずおれそうになるヤイロを立ち上げらせヤイロの家、娘が死んだ家には向かつて下さる。同時に、主は、この言葉を「聞き流して」下さつた。

それが最後の言葉ではないと聞き流して下さつた。ヤイロは狼狽し、打ち寄せ潮の響きより大きく、大水のとどろきよりも力強く、海に砕け散る並よりもさらに強く、高くにいます神に目を向ける。

主は、ヤイロの家、娘が死んだ家に入られる。そして娘に「タリタ、クム」（少女よ、起きなさい）といわれた。主の言葉によつて少女は再び「生きるもの」とす。この主は「力強く、高き主」でありながら、自らを低く、十字架に至るまで低くして下さつ



追悼 西堂 昇師

更新伝道会
前副会長 真壁勝一

「思い出」

西堂昇先生にはじめてお目に会ったのは一九六四年の奥羽教区総会時でした。先生は戦前に青山学院神学部をご卒業され、日本メソジスト教会の教職として、最後の監督、安部義宗牧師によつて北海道のメソジスト帯広教会へ任命されました。戦時中の伝道、牧会のご苦労は想像もつきません。間もなく日本メソジスト教会が他教派の教団教会と合同し、「日本基督教団」となり、先生はじめ幾多の教職が戸惑いを経験されたことであります。当時の訓練を後輩の私たちに語られました。

先生は一九六一年から七二年まで青森県の八戸柏崎教会で牧会にあたられていました時、私は岩手県盛岡市の下の橋教会で主の御用に当たっていました。先生の試練などに比べれば、わたしの苦悩などまことに小さなものでしたが、先生は親身になつて解決の道を探ってくださいました。あるときには奥羽・北東地区

開催の教師会に招かれ、カウンセリ
ングの学びで指導を受けたこともあ
り、感謝しています。先生は若いこ
ろ、「学生キリスト教友愛会」で長
い間、協力主事として活躍されま
した。その影響を多くの方々が受け
たに違いありません。

奥羽教区で一年間牧会、キリス
ト教育に従事する一方、教区副議長
の役職をかねておられ、多忙な日々
をおくられました。その後、東北教
区仙台五橋教会で六年間牧会に従事
され、一九七八年に本多記念教会に
迎えられました。日本メソジスト教
会最後の監督（ビショップ）、阿部
義宗牧師が伯父本多庸一牧師（日本
メソジスト教会初代監督）の名に因
んで命名されたと聞きおよんでいま
す。西堂牧師は最初に阿部義宗元監
督に任命されて、伝道、牧会に就き
ましたが、最後の伝道地は元監督が
創立された由緒ある教会でありまし
た。神のご摂理でありましょう。

先生の多大のご協力で、「日本メ
ソジスト教会 礼文資料」及び「日
本メソジスト教会 教義及条例資
料」を復刻し、簡潔にして要を得
た解説をつけていただき、出版が
できました。日本基督教団の教憲
教規に相当するものであります。

なお、生前、ジョン・ウエスレ
イの信仰、教え、生活、伝道その
他に関心をもち、かれの生誕地、
回心の場所などを訪れたい夢をい
だしておられました。一九八八年
にその夢が実現したのです。ウェ
スレイ回心二五〇年記念日をロン
ドンのセントポールカテドラルと
アルダスゲート近郊の野外礼拝堂
で迎え、礼拝を守られたと喜びを
語っておられます。

聖霊の導きにより、喜びと感
謝に満ちたご生涯であつたことと
存じます。

主イエス・キリストの慰めがご遺
族様のうえに豊かにありますよう
に、心よりお祈りもうしあげ、思
い出いたします。

全体委員会報告

準備委員長 梅津裕美

例年よりも多い四〇名の参加で、
二月六・七日、ニューウェルシティ
湯河原にて開催しました。

今回は、この春青山学院大学を定
年退職される東方敬信師を講師とし
て、『平和を証しする共同体―希望
の生を生きる』を主題に、学びの時
を持ちました。映像や音楽を交えた
お話に引き付けられながら、メソジ
ストの信仰を継承する共同体の喜び
を再確認しました。また、開会礼拝
説教「信仰継承」松木田博牧師（甲
府教会）、朝の礼拝 立証「恵みの
教会学校」江渡信行兄（相模原教会）、
閉会礼拝 説教「全地よ 主の御前
に沈黙せよ」森里信生牧師（関西学
院教会）のご奉仕にも感謝します。

総会では、会費納入が縮小してい
るとの報告があり、大切な課題と受
け止め、今後、三役から対応案を提
案いただき、常任委員会にて継続協
議することとなりました。

今回の準備にあたりましたのは、
委員長梅津裕美（本多記念教会牧
師）、岩本聖史（白鷺教会牧師）、小
宮山剛（逗子教会牧師）、黒田毅（武
蔵豊岡教会）、西田寛子（鳥居坂教会）
でした。盛会を感謝します。

追悼「教会の堅立」を願 い戦った森里忠生先生

な人材を次々と輩出しました。

更新伝道会
常任委員 張田 眞

先生は二〇一二年三月十五日、天に召されました。三月一六、一七日、関西学院教会でご長男の森里信生牧師司式により前夜式、葬儀が行われました。一九一四年二月のお生まれです。九七歳でいっしょいました。

私は先生の後任として同教会に赴任しましたが、思い起こすのは一九七七ご卒業、四国の八幡浜教会を経て、年に先生が始められた福音主義教会連一九四六年六月に豊中教会牧師に就任、一九七三年六月に豊中いわお教会を設立、一九八七年三月までお働きになりました。その間、淀川キリスト教病院理事（最後は副理事長）に就任、信徒の育成、教会学校教師の養成、中隠退後も同病院での主日礼拝のご奉仕をお続けになりました。

先生が牧師をなさっておられた時代の豊中教会は大阪教区でもっとも礼拝出席の多い教会の一つで、旧組合の大阪教会、旧日基の堺教会などとともに大阪を代表する教会でした。青年も多く、牧師、神学者、教育者など、有為

先生のお働きに感謝し、主の御名を賛美いたします。

書記報告

常任委員会

（二月一八日・出席二二名）

- ・全体委員会の報告を受け、若干の協議をなした。
- ・回心記念日集会の準備状況の報告を受け、協議した。
- ・大会の準備について小宮山委員長より報告を受けた。
- ・一瀬和子姉の委員辞退を承認。
- ・新常任委員、委員住所を確認。
- ・総会に於いて話し合われた予算と会費の納入について、次回常任委員会迄に三役会で協議。
- ・各委員会より報告を受けた。

消 息

- ・森里忠生牧師、昨年三月一日に召天されました。
- ・銀座教会、宮庄博副牧師が三月末で辞任され、松山番町教会の主任担任教師となりました。
- ・高田和彦牧師、九段教会に就任されました。
- ・阿佐ヶ谷教会・カン・キヨシミ副牧師が高知教会に赴任され、加藤真衣子副牧師が就任されました。
- ・広尾教会・米山恭平牧師が主任担任牧師就任されました。

ウェスレー回心記念日集会

二〇一二年五月二十四日（木）

於：銀座教会

午後六時 礼拝

説教 高田和彦牧師（九段教会）

午後七時 講演会

講師 那須輝彦氏

音楽史学者。立教大学大学院文学研究科博士前期課程修了。ケンブリッジ大学大学院修士課程修了。一五〇一七世紀イギリス音楽史専攻。現在青山学院大学文学部史学科教授、日本聖公会東京教区聖歌隊指揮者。

会費納入のお願い

更新伝道会の活動は会員の会費と献金とで行われています。今年度の会費が未納な方はぜひとも年内にお納めください。また、長年お忘れの方は今年度からでも結構ですので、宜しく願います。特に新年度を迎えました。各教会の予算に組み込んでいただき、教会としての会費納入も願います。

2012 年度更新伝道会 役員・常任委員・委員

会長	佐野 英二	安藤記念	教職
副会長	石渡 伸一	聖徒	信徒
副会長	藤村 和義	渋谷	教職
書記	岸 憲秀	千葉本町	教職
書記	岩本 聖史	白鷺	教職
会計	中井 幸夫	安藤記念	信徒
会計	西田 寛子	鳥居坂	信徒

顧問	玉野 保美	安藤記念	信徒
顧問	角谷 貞夫	安藤記念	信徒

常任委員	石丸 泰樹	小石川明星	教職
常任委員	伊澤しのぶ	九段	信徒
常任委員	伊藤 瑞男	大泉ベテル	教職
常任委員	鶴飼 栄子	銀座	信徒
常任委員	梅津 裕美	本多記念	教職
常任委員	江渡 信行	相模原	信徒
常任委員	大三島 義孝	碑文谷	教職
常任委員	大村 栄	阿佐ヶ谷	教職
常任委員	笠原 康子	銀座	信徒
常任委員	勝山 健一郎	竹岡	教職
常任委員	G.W. ギッシユ	隠退	教職
常任委員	清弘 剛生	頌栄	教職
常任委員	黒田 毅	武蔵豊岡	信徒
常任委員	小宮山 剛	逗子	教職
常任委員	坂井 賢治	片倉	教職
常任委員	佐藤 安彦	無任所	教職
常任委員	角谷 多美子	安藤記念	信徒
常任委員	高田 和彦	立川	教職
常任委員	辻川 篤	相模原	教職
常任委員	土屋 利子	銀座	信徒
常任委員	中村 謙一	亀戸	教職
常任委員	長山 信夫	銀座	教職
常任委員	永吉 章三	千葉本町	信徒
常任委員	林 牧人	西新井	教職
常任委員	張田 眞	鳥居坂	教職
常任委員	深町 正信	無任所	教職
常任委員	布施 英雄	頌栄	信徒
常任委員	真壁 巖	相愛	教職
常任委員	真壁 勝一	隠退	教職
常任委員	松井 睦	聖徒	教職
常任委員	松木田 博	甲府	教職
常任委員	森 研四郎	鎌倉	教職
常任委員	山田 喬夫	無任所	教職

委員	安藤 博子	富士吉田	教職
委員	石田 聖実	尾陽	教職
委員	伊藤 忠彦	和泉短大	教職
委員	伊藤 地塩	隠退	教職
委員	鶴崎 庚一	碑文谷	信徒
委員	江原 淳	隠退	教職
委員	大島 栄一	相模原	信徒
委員	大橋 弘	隠退	教職
委員	片山 秀夫	相模原	信徒
委員	加藤 孔二	北広島	教職
委員	金井 次夫	本多記念	信徒
委員	金附 正夫	八千代台	教職
委員	北村 宗次	隠退	教職
委員	金 明淑	甲府	教職
委員	具志堅 篤	誼谷	教職
委員	小出 直久	銀座	信徒
委員	高 承和	聖和	教職
委員	小林 貞夫	日下部	信徒
委員	小林 克哉	呉平安	教職
委員	斎藤 孝	碑文谷	信徒
委員	佐藤 千郎	隠退	教職
委員	佐久本 正志	戸山	教職
委員	篠田真紀子	無任所	教職
委員	嶋田 順好	青山学院	教職
委員	下田尾治郎	田浦	教職
委員	鈴木 崇巨	聖隷クリストファー大	教職
委員	瀬下 羔子	経堂緑岡	信徒
委員	竹内 郁夫	隠退	教職
委員	田添 禧雄	姫路福音	教職
委員	千原 創	境南	教職
委員	津川 幸七	相模原	信徒
委員	土戸シュー・ボール	青山学院大学	教職
委員	東方 敬信	青山学院大学	教職
委員	中村 民男	隠退	教職
委員	鳴坂 明人	横浜磯子	教職
委員	野村 誠	共愛学園	教職
委員	原 裕	天童	教職
委員	平松 実人	西大井	教職
委員	富士松武子	銀座	信徒
委員	三木 信弘	北広島	信徒
委員	森里 信生	関西学院(教)	教職
委員	山内 一郎	無任所	教職
委員	山口 文恵	広尾	信徒

ウェスレー研 林 牧人
編集委員会 岩本 聖史
出版 藤村 和義
資料収集 森 研四郎

国際交流 高田 和彦
伝道協力 佐野 英二
人事相談 大村 栄
大会 小宮山 剛
回心 長山 信夫